

# 第3学年音楽科学習指導案

## 1. 題材名

せんりつの重なりよさやおもしろさを感じとろう

教材：G.ビゼー作曲『アルルの女』より「ファランドール」（教育出版3年）

高木あきこ作詞・平吉毅州作曲「パレード ホッポー」（教育芸術社4年）

## 2. 題材の目標

### (1) 音楽科としての目標

- 旋律の反復や重なりなどを「音楽的な見方・考え方」を働かせて聴き取り、曲の構成を理解できる。
- 音量のバランスやタイミングを意識したり工夫したりしながら友達と歌い、旋律が重なる面白さを感じ取ることができる。

### (2) 汎用的スキル

- 音量のバランスやタイミングを工夫して2つの旋律が歌えているかどうか、音楽的な感性を働かせながらグループ練習を行い、互いに意見を伝えあいながらよりよい演奏を目指していくことができる。（感性・表現・創造の力）（伝える力）

### (3) 態度・価値

- グループで友達と意見を出し合い協力し合いながら練習し、「よりよい演奏にしたい」という向上心を持って取り組むことができる。（協力しあう心）（向上心）

## 3. 児童の実態

児童はこれまで、「ユモレスク」「白鳥」組曲『アルルの女』より「メヌエット」を鑑賞し、楽器の音色や旋律の特徴などを聴き取ることができた。しかしながら、鑑賞で学んだことのよさを、他の場面でも気付いて実感したり、学んだ知識を他の学習に生かしたりするような経験は少ない。そのため本題材では、鑑賞で感じ取った音が重なる面白さを、歌唱でも経験して実感できるようにしたいと考えた。児童はこれまでに合唱の経験はなく、「ウンパッパ」と「パレード ホッポー」で初めてパートナーソングを経験した。しかしながら、相手の声を聴くことを意識したり、声を合わせることを楽しんだりすることはまだできていない。声を重ねる経験がほとんどない児童が、重ねることをすぐに楽しむことは難しい。最初は自分の旋律を歌うことに集中すると思われるが、慣れてきた段階で、相手の声を聴くことを意識させたい。また、何度も合わせることや、音量のバランスやタイミングを意識することによって、「ぴったり揃っていいな」「声を合わせるのは楽しいな」と思えるようにしたい。

## 4. 題材について

### ①教科から見た特性

鑑賞の際に、2つの旋律が重なり合う部分で、わくわくしたり楽しいと感じたりしたことを、歌唱でも「重ねて歌ってみたい」「重ねて歌うと楽しい」と感じるようにしていきたい。相手の声を聴くことがまだ難しい児童もいるが、グループ練習を通じて相手の声を意識して取り組めるような活動を設定する。音量のバランスとタイミングに気を付けながら、グループで上手く合うことや旋律を重ねて歌う楽しさを感じ、音が重なる面白さに気付けるようにしていきたい。

### ②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

グループで楽しく友達と歌い合い、意見を伝え合いながら練習し、2つの旋律を重ねる楽しさを感じられるようにしていきたい。グループでの練習や全体で各グループの演奏を聴き合う場を本時の中間に設定することで、お互いの意見を伝えあい、よりよい演奏を目指す意欲を持てるようにしたい。このようなグループ練習や全体での共有の場の設定が、「伝える力」「感性・表現・創造の力」「協力しあう心」「向上心」を育むことに有効であると考えられる。

## 5. 題材計画と資質・能力を育成する主な手立て（全3時間 本時3/3時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	・2つの旋律の特徴を聴き取る。 ・2つの旋律の反復や重なりを、身体を使って感じ取り、曲の構成を理解する。	○感性・表現・創造の力	○身体を使って音楽の特徴を感じ取る場の設定
第2次 (1時間)	・相手の声を聴きながら音量のバランスやタイミングに気を付けて歌い、旋律が重なる面白さを感じ取る。	○伝える力 ○協力しあう心 ○向上心	○グループ活動や発表による他者との学び合いの場の設定

## 6. 本時の学習指導

### (1) 本時のねらい

- ・ 2つの旋律を重ねるために、音量のバランスやタイミングについて気を付けたり考えたりしながら、相手の声を意識して歌っている。
- ・ 友達と旋律を重ねる活動を楽しみ、旋律が重なる面白さを感じ取ろうとしている。

### (2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 10分	○前時の内容を想起し、本時のめあてを確認する。 ・きれいな声で歌うこと ・怒鳴り声同士だと、上手く重ならない。	◇「全然違う2つの旋律を重ねるためには、何が大事か」という発問をし、何に気を付けて歌うとよいのか、目標を明確にし「やってみよう」という思いを喚起する。(向上心)
展開 30分	相手の声をききながら、せりつが重なる楽しさを感じよう	
	○5グループ（各6人）に分かれ、相手の声を聴きながら歌う。 ・相手の声を聴きながら歌うのは難しいよ。 ・もう少し私たちが声を小さくすると、バランスがよくなるんじゃないかな。  ○他のグループの歌声を聴き、よいところを認め合う。 ・～グループは音のバランスがよくてきれいに聴こえる。 ・～グループは「ゆめが」のところがよくそろっているね。	◇各グループを回り、「音量のバランスやタイミングはどうか」を聞き、気を付けるべきポイントへの意識を高められるようにする。(向上心) ◇歌った後に意見を出し合い、互いの考えを大切にしながら練習するように促す。(協力しあう心)  ◆相手の声を聴きながら、バランスやタイミングについて考えたり友達と意見を出し合ったりしながら歌っている。  ◇中間発表を設定し、他の友達のよいところを伝えたり、よりよくするためにアドバイスしたことを、その後の練習に生かせるようにする。(伝える力、向上心)
結末 5分	○旋律を重ねることについて振り返る。 ・なかなか相手の声を聴くことが出来なかったけれど、練習していくうちに少しずつ聴けるようになりました。 ・相手の友達とタイミングを揃えるのは難しかったけれど、合うと気持ち良かったです。	◇「2つの旋律を重ねて歌ってみて、どのようなことを感じたり考えたりしたか」と発問し、旋律をきれいに重ねるために、難しかったことや工夫したことや楽しかったことなどを全体で共有するように促す。(伝える力)  ◆友達と旋律を重ねる活動を楽しみ、相手の声を聴きながら、旋律を重ねる面白さを感じ取ろうとしている。